

科目名	教育心理学
科目名(英訳)	Educational Psychology
科目ナンバー	HW141B02
担当者 (非)は非常勤講師	山内 星子
単位数	2
開講学年	2年
開講セメスタ	春期毎週
履修順序・履修情報	類似科目情報あり
担当者及び時間割	【春学期】 山内 星子: 月5-6
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	本科目は「心理学発展科目(基礎心理学)」に区分される。教育心理学の基礎的な概念や理論を取り上げる。そのため、教育心理学の基礎的な概念を習得していることが前提となる「教育心理学B」の前に履修しておくことが望ましい。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ③:◎
身につく基礎力 / 身につく汎用力	課題設定力 クリティカル思考力 / 専門的知識・技能 学び続ける能力 協調性・協働性(公益心)

授業の主旨 (概要)	主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度を習得することを目的とする。 教育心理学は、子どもを発達主体として理解し、その発達を促す教育的働きかけとは何か、心理学的な視点から考える学問である。本講義では、学習や動機づけのメカニズム、学習指導のあり方、教育評価の方法、子どもの多様性、学級内の人間関係など、教育心理学の基礎的知見について理解を深める。加えて、思春期に増加する不登校、いじめ、非行、自傷行為などの問題行動の特徴と対処のあり方について、臨床心理学的視点も含めて議論する。実践的な方法論を習得することよりも基礎的な理解を身に着けることに重点を置く。		
具体的 達成目標	授業の趣旨に基づき、以下を達成目標とする。 1. 子どもの学習のメカニズムに関する基礎的な心理学的知識を獲得し、説明することができる。 2. 子どもの学習を促進する効果的な学習指導のあり方についての知識を得、説明することができる。 3. 不適応問題のメカニズムと対処のあり方について理解し、対処に関する自らの考えを述べることができる。 4. これらの知識に基づいて、学校現場で生じる多様な教科指導上または生徒指導上の問題に対して、自ら対処の方法を検討することができる。		
授業計画	1	【内容】	第1回 教育心理学の役割と特徴
		【授業外学習】	教育心理学の目的や方法論について説明文を作成する。
	2	【内容】	第2回 学習の理論(1): 行動主義
		【授業外学習】	古典的条件づけ、試行錯誤学習、オペラント条件づけについて説明文を作成する。
	3	【内容】	第3回 学習の理論(2): 認知主義
		【授業外学習】	洞察説、サイン・ゲシュタルト説、場の理論、社会的学習理論について説明文を作成する。
	4	【内容】	第4回 学習の理論(3): 記憶・学習の諸相
		【授業外学習】	記憶のメカニズムとその学習指導への応用、および忘却、学習曲線、学習の転移について説明文を作成する。
	5	【内容】	第5回 動機づけ(1): 欲求と動機づけ
		【授業外学習】	欲求と外発的動機づけについて説明文を作成する。
	6	【内容】	第6回 学習指導の理論
		【授業外学習】	プログラム学習、発見学習、有意味受容学習などの指導法について説明文を作成する。
	7	【内容】	第7回 教育評価I
		【授業外学習】	教育評価の様々な方法の特徴について説明文を作成する。

	8	【内容】	第8回 教育評価2
		【授業外学習】	教育評価の様々な方法の長所、短所に関する説明文を作成する。
	9	【内容】	第9回 教室の人間関係1
		【授業外学習】	教室で生じる問題について説明文を作成し、それを予防するにはどのようにすればよいかを考察する。
	10	【内容】	第10回 教室の人間関係2
		【授業外学習】	教室で生じる問題について説明文を作成し、それを予防するにはどのようにすればよいかを考察する。
	11	【内容】	第11回 個人差と多様性: 知能
		【授業外学習】	認知的側面の個人差の構造や把握の方法について説明文を作成する。
	12	【内容】	第12回 新たな特別支援教育
		【授業外学習】	能力の個人差や、それに合った教育の在り方について調べ、説明文を作成する。
	13	【内容】	第13回 問題行動の理解と支援
		【授業外学習】	不適応問題の基本的特徴とメカニズムについて説明文を作成する。
	14	【内容】	第14回 学校における支援
		【授業外学習】	学校における心理学的理論を援用した支援の在り方について、文献を調べ説明文を作成する。
	15	【内容】	復習とまとめ
		【授業外学習】	本講義の理解度について自己評価をする。
授業方法	スライドを用いた講義形式。主体的・対話的で深い学びの実現のため、授業内では適宜質問や自分自身の意見の発表を求める。また、毎回の授業の最後に、授業の要点をまとめたリアクションペーパーの作成を求める。フィードバックは、授業中に適宜行う。授業への積極的な参加を期待する。		
成績の 評価方法	期末試験40%、リアクションペーパー40%、平常点20%で評価する。期末試験は、用語や人名の知識よりも、授業内で扱った理論や実験の内容の理解を問う内容とする。リアクションペーパーは「授業で学んだことを、自分の体験等に結び付け、有機的に理解できているか否か」によって評価する。平常点は主に授業への参加態度によって評価する。睡眠、スマホ、私語などによる授業への不参加は減点対象となる。		
成績の 評価基準	期末試験の得点、リアクションペーパーの内容、授業への参加を達成目標に照らして評価し、総合して60点以上を合格とする。3分の1を超える欠席があった場合、不合格とする。		
教科書			
参考文献			